

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500786
法人名	有限会社 オフィス・KPQ
事業所名	グループホーム 夢楽の園
所在地	〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町2-29-6 (電話) 043-291-1055

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	4月20日

【情報提供票より】(21年2月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4 人	

(2)建物概要

建物構造	木 造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 ~ 58,000 円	その他の経費(月額)	水光熱22,000円、 健康管理費1,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(3年償却)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	650 円	おやつ	100 円
	1 日当たり 1,600 円			

(4)利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.4 歳	最低 58 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木村病院、千葉南病院、鎌取サカエデンタルクリニック、谷中歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは、意思表示が減退していく認知症高齢者ではあっても、胸の内や意見を出来るだけ表明してもらい入居者の主体性を尊重した援助を大切にしている。「町内会議」と名づけて毎月1度入居者全員が集い、これから先1ヶ月は何をしたいか、どこへ行きたいか、などを思いのままに言い合い現実の行事計画に生かされているのもその一つ、入居者たちの表情も明るく、生き生きしている。また、ホームの建物自体は全体が千葉県産の杉材ふんだんに使いロジック風に造られており、無垢材の床には床暖房が施され、吹き抜けの天井の天窓からも光が差し込んでいる。ぬくもりが感じられるグループホームに見学者も多い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題として研修体制、とくに内部研修の不足が指摘された。外部研修に関しては、施設側の情報提供も職員の研修参加も積極的に進められて来ているが、内部研修に関しては業務に追われ、全体会議の一部を外部研修参加者の報告や意見交換に充てる以外に、独自の勉強会を行なうゆとりが持たない状況が続いている。人員面なども考慮した研修体制が充実することが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価制度の意義や目的はこれまでの実践を通して全職員に理解されている。全体会議等で集約される職員一人ひとり意見も参考にしながら、ホームとしての自己評価票がつけられている。外部評価の結果も全体会議や運営推進会議で提示され、改善に向けた取り組みにつなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はホーム職員、ケアマネジャー、家族代表、地域の民生委員、地域包括支援センター職員、自治会の人らが参加して、おおむね4ヶ月に1度のペースで開いている。施設や入居者の現状報告や課題について話し合われるが、「会議」という堅苦しい雰囲気では発言しにくいと考え、自由な意見交換会という形で進めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見や不満を把握するため、面会ノートに記入欄を特設しているほか、苦情を受ける窓口を常設していることも入居時等に説明している。運営推進会議の場で家族の意見が十分聞けるよう、職員の側から積極的に問いかけもしている。一方、施設からは月々の行事や誕生日時の入居者のカラー写真を満載した広報紙「夢楽ニュース」を家族に送りホームでの様子を知らせて、家族との交流に役立てている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者を知ってもらうことがホームへの理解につながるとして、散歩時には行き交う人に忘れず挨拶している。地域のマラソン大会や祭りに参加する一方、ホームのひな祭や七夕祭、クリスマス会に地元の人を招待している。また中学生の職場体験にホームを開放している。近隣農家の栗拾いに招かれたり、柿やりんごの差し入れもある。

2. 評価結果 (詳細)



(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の主体性を尊重した援助を心がけ「心の声に耳を傾ける」という理念を掲げている。くち数が少ない高齢者が日ごろ何を望み、何を感じているか、をじっくり寄り添いながら聞きだす努力をしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の援助活動のなかで、どのような本音が聞きだせたか、を毎月1度の全体会議で持ち寄り、理念の共有化を図っている。また理念を大書した額を玄関やリビングなど目に付きやすいところに掲示し、確認し合っている。		
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者を知ってもらうことがホームへの理解につながるとして、積極的に挨拶している。地域のマラソン大会や祭りに参加する一方、ホームのひな祭や七夕祭、クリスマス会に地元の人を招待している。また中学生の職場体験にホームを開放している。近隣農家の栗拾いに招かれたり、柿やりんごの差し入れもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的はこれまでの実践を通して全職員に理解されている。全体会議等で職員一人ひとりが評価項目ごとに意見を述べ合い、それを集約した形で管理者が自己評価票をまとめている。外部評価の結果も全体会議や運営推進会議で提示され、改善に向けた取り組みにつなげている。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホーム職員、ケアマネジャー、家族代表、地域の民生委員、地域包括支援センター職員、自治会の人らが参加して、おおむね4ヶ月に1度開いている。施設や入居者の現状報告や課題について話し合わせ、「会議」というと堅苦しいので、自由な意見交換会という形で進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市の相談員が毎月来訪し、グループワークの輪に加わるなどして入居者の様子を観察するかたわら、サービス等をめぐる職員の相談や意見交換に応じる体制がとられている。グループホームとのかかわりが深い地域包括支援センターとは、情報交換を密に行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態等は、家族が面会に来た時を選んで伝えている。月々の行事や誕生祝い時の入居者のカラー写真を満載した広報紙「夢楽ニュース」とお小遣い帳を月1回家族に送っている。ほかに絵手紙づくりを指導し「一番大事に思っている人」に送る働きかけもしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満を把握するため、面会ノートに記入欄を特設しているほか、苦情を受ける窓口を常設していることも入居時等に説明している。運営推進会議の場で家族の意見が十分聞けるよう、職員の側から積極的に問いかけもしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出て新しく職員を採用し、新しい職員が少しでも早く入居者との信頼関係を築けるよう努力している。	○	ホームの「情報提供票」によると、開設以来の常勤職員の離職・交代が10数回を数えている。結婚、出産、転職などが理由に挙げられているが、少しでも職員が辞めずに働ける職場づくりへの一層の努力を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の積極参加を促し、全体会議で内容を共有している。内部的にも随時勉強会を開いているが、職員の経験やスキルに合せた研修には至っていない。職員が入居者と向き合うなかで感じたことを「業務日報」につづり、管理者、ケアマネ、法人代表がこれに必ず目を通してコメントし、情報共有と職員の自己啓発に役立っている。		内部研修に関しては、業務の傍らの実施を継続しているが、職員一人ひとりの経験習熟度に応じた研修計画を作ると、さらによいと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム連絡会に加盟し、他のホームとの相互見学や職員同士の意見交流をしてサービス向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者・家族が納得して入居できるよう、可能な限り体験入居を受け入れるなどして対応している。ホームの生活に慣れる様に、職員は一日の生活リズムを教えたり、他の入居者との信頼関係が早く築けるような働きかけに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が穏やかにホーム生活を送るためには、家族の協力が不可欠と考えている。面会時には入居者・家族にお茶を提供し、レクリエーション活動や散歩などにも、家族と一緒に参加できることをお知らせしている。入居者と家族との関係が途切れないよう心がけ、支援を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者個々のことを「業務日報」に書き留め、サービス向上に役立てる努力をしている。併せて入居者にも主体的に自分の気持ちを述べる場を持ってもらおうと、「町内会議」と名づけた集いを毎月開き、何をしたいか、どこへ行きたいかなど、思いのままを言い合う機会を作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入居者の生活歴、本人・家族の意向などを反映し、職員が全体会議で出し合う意見も取り入れた上で、作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は入居者の状態変化に合わせて、随時見直しが行なわれている。見直した介護計画によって入居者の状態が改善された場合、改善に至る道筋や、問題の原因・結果をしっかりと全体会議で共有するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業者は陶芸教室も開いており、希望者は作品作りを楽しんでいる。遠出や行事の際の送迎にはホームのミニバンが活躍している。また入居者には地域住民と同様、ファミリーレストランやスーパーへ自由に行けるよう、店側に理解と協力を依頼している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が以前から受診していたかかりつけ医をホーム入居後も継続することが可能である。ホームの協力医療機関からは、月2回の訪問診療と、週2回の訪問看護が行なわれている。口腔ケアも大切と考え、歯科医との連携も図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能な限りターミナルケアに応じるという考えは、入居時から本人・家族に伝えている。終末期はこれまでの生活の延長線上に必ずやって来る当然のこととしてとらえ、本人・家族の意向を尊重し、医療との連携を深めながら対応して行く方針を職員も共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室にトイレ完備のため、共用トイレにおける羞恥心配慮の問題は発生していない。入居者がトイレに行きたくなったときにすぐ誘導・介助できるよう、職員は常に目配りをしている。また記録を取り、排泄パターンを把握するよう心掛けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、入居者の気持ちを優先して援助している。自室ではテレビを見たり、ベッドで休んだり、と一人ひとりが思うままに生活している。リビングは夜9時に消灯するが、自室ではその後も自由に過ごせる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は配食業者からメニューと食材を届けてもらっているが、入居者の希望に沿って皆で料理したり、食べに出かけることも多い。茶碗・お椀・マグカップ・箸は入居者が持参したものを使っている。陶芸教室で作った食器も、畑でとれた野菜も食卓に並ぶ。午後のおやつは職員の手づくりが多い。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木造のホームにふさわしくヒノキ風呂である。浴室のガラス窓も広く、目の前の林を眺めながら露天風呂感覚で楽しめる。入浴は二日に一度が基本で、入浴順が不公平にならないよう入居者同士が話し合い、9回に1回は一番風呂に入れるローテーションを組んでいる。毎朝、蒸しタオルでの清拭と陰部洗浄も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝、入居者全員が、できる範囲の掃除を担当する。調理の一部をまかされたり、後片付けで食器をふくなどの手伝いも自然にしている。入居者が一堂に会する“町内会議”は自由に意見を言える場であり、その場での希望を職員と共に実現させている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日出かける。近隣の散歩だけでなく、地域の大きな公設公園などにもよく出かける。図書館の活用にも積極的で、入居者の何人かは地元の分館に週1回通い、本や絵本、CDなどを借りて来る。個人的な買い物にも職員と出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・テラスとも鍵はかけていない。職員の気づかぬ間に入居者がホームを出てしまうことがないよう、見守りは職員同士連携して万全を期している。入居者の中にも見守りに協力する人がいて、職員を助けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議を利用し、近隣の協力も得られるよう働きかけている。		訓練は回を重ねているが、ホームが訓練の記録を詳しく保存していないため、防災ノウハウが蓄積されていない。緊急時の対応マニュアルは作成されているので、これを常時見やすいところに掲示したり、訓練のノウハウをしっかり記録して、内部研修で繰り返し読み合わせ、職位全員が情報共有しておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームに栄養士はいないが、委託の配食業者にカロリーとバランスを配慮してもらっている。入居者の毎食の食事量や水分補給量は記録され、きざみ食等も必要に応じて提供されている。入所してからADL(日常生活動作)が向上し、普通食になった人も多い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が無垢材でつくられ、木のぬくもりがある。リビングにはいっぱいの光が差し込んで、手づくりの日めくりカレンダーとあちこちに置かれた生け花が季節を教えている。リビングから外に出るテラスは、あるときは開放的なランチ食堂、あるときはふとんや洗濯もの干し場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋ごとの配置や間取り、窓から見える景色も多様である。入居者はそれぞれ気に入った家具や本・写真を持ち込み、自分だけの安心と癒しの空間をつくっている。		